

【知事臨時記者会見】5月14日

知事／本県は、経過観察期間として、一つひとついねいに対応している。今日から学校が再開。教育委員会から順調に推移していると聞いている。子供たちは、充実した日々を送ってほしい。

今日は、令和2年度5月補正予算案について。予算の規模は、538億700万円で、補正予算としては、過去最大規模と言っている。そのうちの480億円余は、新型コロナ対策資金。その多くは預託金で、協調融資をしている。補正後の予算額は、5,520億円余。

4月に専決した予算は、まず傷を抑えるようなもの。5月の補正予算は、感染拡大防止対策と事業者支援の拡充、「自制型」の生活に対応するためのもの。今回間に合わなかったものや、さらに経済活動を再開させるための予算を6月補正予算としたい。この3段階を考えている。

2つに分けて説明する。まず、感染拡大防止策、次に事業者への支援について。

プロジェクトM

我が県が対応をしっかりできるのは、この制度で病院のベッドが確保されているから。医療関係の皆さんのおかげで、我々の安心材料になっている。この対策を堅持していくことが大事。補正予算は16億3,000万円。医療用の手袋、防護服、ゴーグルなどに7億9,000万円余。今回は、受け入れ機関に、空床の補償をしている。ベッドを空けておくために2億5,000万円余。宿泊療養施設の運営に2億4,000万。つまり、アパホテルの借り上げとランニングコスト。それらを含め、16億3,000万円。さまざまな事業にしっかりと取り組んでいく。

マスクや消毒液の提供

これに9億6,000万円余。たくさんのマスクの寄付をもらっている。これまで33万枚を無償でいただいた。最初の頃の足りないときにももらったことを含め、本当に感謝している。前回の会見では、6月までは足りていると言った。第2波、第3波に備えるために、11月分までの予算対応を今回はする。マスク720万枚、消毒液が8万2,000リットル。これを確保して、医療機関や介護施設、障害者支援施設に対応したい。

要保護児童サポート体制

1つ目は、県の受け入れ体制。保護者が新型コロナで入院し、陰性の子供が残った場合。県で、預かる施設の受け入れ環境を整備、強化する。そして、専門性を持った職員を派遣する。こういったハードも大事だが、大事なのはソフト。急に親がいなくなってしまう子供たちに、しっかり対策をする。2つ目、児童養護施設等の体制整備の支援。ここは、人の接触が多い施設。パーティー等購入支援、個室化、民間賃貸住宅借り上げの支援。陽性者が出る前から体制整備の支援をするために予算化している。

オンライン教育への挑戦

今日から学校が始まっている。また休校になった場合に備えて、プロジェクトEを進めていく。オンライン授業の準備は、1週間から10日で体制が整うと聞いている。6月以降に休校になっても、速やかにオンライン教育の体制がとれる。その準備のため、マイクやカメラ、技術者の配置、自宅の環境の確保、Wi-FiやUSBも用意している。そういった予算です。

後半の事業者への支援について。これまで、6本の支援策を打ち出してきた。昨日から交付が始まっている佐賀型店舗休業支援金と県境ストップ支援金。県境ストップ支援金は、県境を行き来できなくなったことで業績が悪化したところは、申し出てもらいたい。

第3弾は、観光・宿泊施設の支援金で1施設につき50万円。第4弾は、国の持続化給付金の対象にならない事業者への支援。特に、初めて開店したとか、また店舗数を増やしたために対象にならないところに対しての支援策。第5弾は、貸切バス・タクシーの支援金。貸し切りバス1台10万円、タクシー1営業所20万円。さらに第6弾はCSOへ、未来創造基金とともに、支援金を交付している。ここまでが、順次発表したもの。今回、5月予算で計上し

たものを説明する。

第7弾「新型コロナ対策資金(拡大)」

もともと県単でやってきた3年間実質無利子で保証料ゼロのものがあった。評判が良く、4月に400億円以上の申し込みがあった。さらに今回は、国の制度とタイアップし、融資額を1,200億円に拡大する。900億円の融資増は、県と金融機関の協調融資。県の預託部分が450億円、残りは保証料の助成や無利子融資分の利子補給に当たる。

第8弾「新業態スタート補助金」

「自制型」の生活を県民とともに模索する。トンネルの向こう側を試行錯誤する中で、新たな業態に取り組む事業者者に補助金を交付する。例えば、3密対策のドライブスルー型(飲食業)の企画。オンラインレッスンに支援してほしいスポーツ業とか。スポーツに関しては、6月に大きなものを考えている。この第8弾で対応できるものは、1店舗につき補助率3分の2以内で20万円を上限に補助する。

第9弾「LiveS Beyond(ライブス ビヨンド)」開催

文化芸術祭を開催したい。ライブハウスやミュージカルは、リアル公演がメインだった。しかし、3密と言われて、リアルではできない。お客さんも来ないし、チケットも売れない。それで、オンライン配信とミックスし、新たな文化芸術祭をやっていききたい。それに掛かる経費を助成していく。ライブハウスは、休業の対象になっていないが、今までの状態では続けられない。これをオンライン配信することで、新たな活動モデルを創出する。その経費を助成し、活動の支援をやっていく。「LiveS Beyond」の意味は、「Live」は生きるという意味。これに「S」をつけて、多様な思いをまとめ上げた複数形の「S」、合わせて佐賀の「S」。「Beyond」は、それを超えてという意味。新たな活動モデルの創出を図るため、約7,000万円の予算をつけた。

今、人の気持ちが悪すぎる。この先に必ず文化の力が大事になる。この分野に携わっている方々は、今、大変だろうが、必ず必要となるので一緒に頑張っていきましょう。

第10弾「佐賀支え愛」応援キャンペーン

県産品を応援する運動。県庁では、さまざまな物産展をやっている。他に、Amazon、ECサイト、ジャパネットたかたやテレビショッピングで応援している。佐賀牛、呼子のイカを月に3回ほど学校給食に提供し、応援する。この企画に約5億円。各業界が厳しいので、あの手この手でやっていきたい。

第11弾「肥育牛農家・花農家に対する支援」

牛は、レストランが閉まっているので、高級な部位が売れない。玉ねぎも同じ。子牛の値段が1頭20万ほど下がっている中、国の制度ともからみ、厳しい状態になっている。肥育牛農家の応援のため、牛1頭あたり2万円、総額2億5,000万円余の支援をする。

花の需要が落ちている。コストが高い分、高く売れる胡蝶蘭は大きな影響を受けている。これらを鑑み、種類を分けた形で、総額5,000万円の花農家への支援をする。

他にも野菜農家が、さまざまな国の制度や既存の制度でやっていけるかどうかを検証している。これから心配なのは、ハウスミカン。贈答用がほとんどなので、この辺りも注視しながら、支援が必要かどうか見極めたい。

今回最大規模の補正予算になった。ぜひ一つになってオール佐賀、チーム佐賀で乗り越えたい。県民の皆さんのご協力、支援をお願いします。